
**2012年3月期
第1四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

帝人株式会社

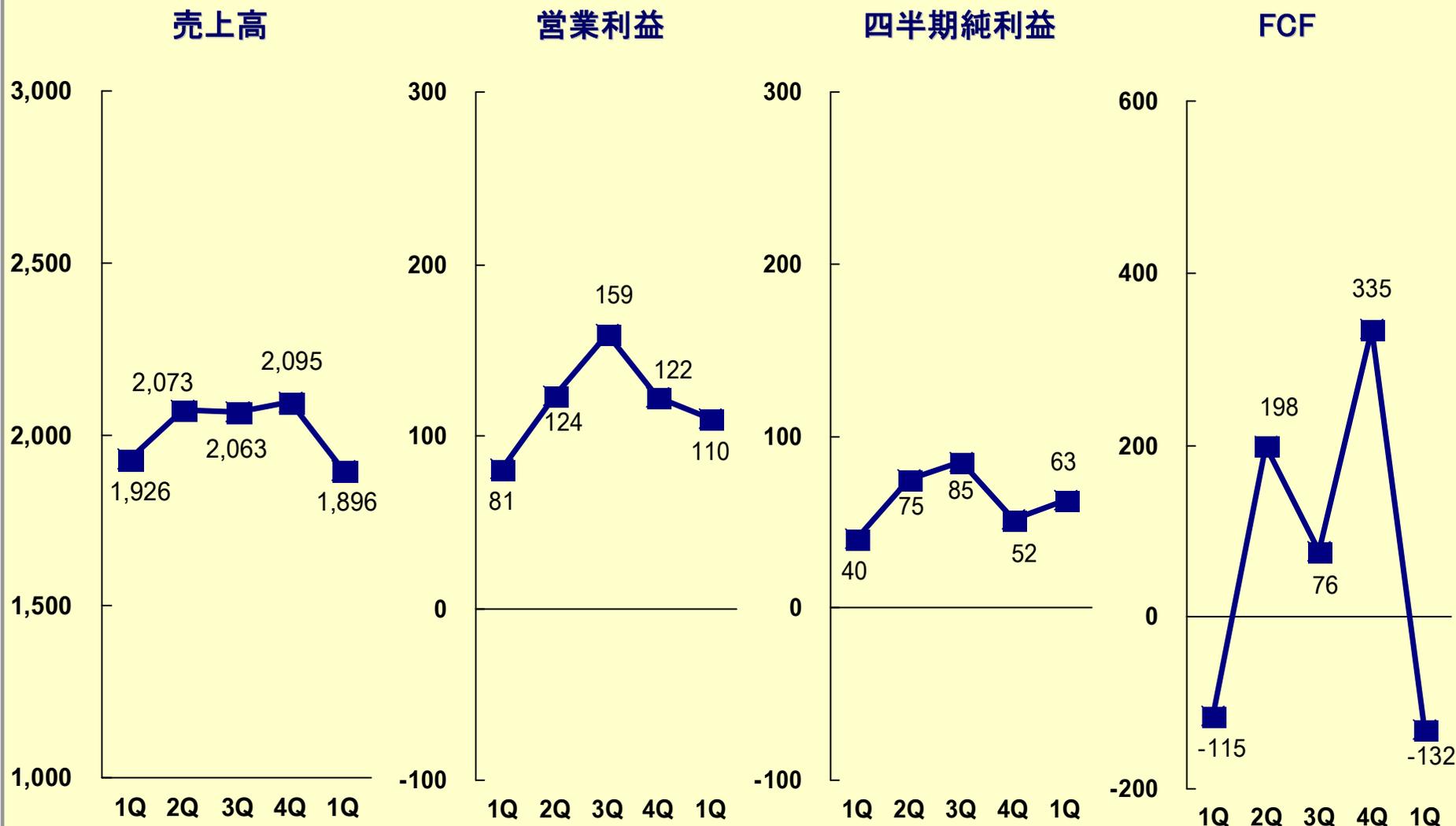
2011年8月1日

第1四半期決算概況

(1) 2012年3月期 第1四半期決算概況

(億円)

四半期推移



◆ <u>経営成績</u> (億円)	10年度 1Q	11年度 1Q	差異 金額
売上高	1,926	1,896	-30
営業利益	81	110	+30
<営業利益率>	4.2%	5.8%	-
営業外損益	-3	18	+21
経常利益	78	128	+51
特別損益	-11	-1	+10
税金等調整前 四半期純利益	67	127	+60
法人税等	24	59	+35
少数株主損益	2	5	+3
四半期純利益	40	63	+22
EPS(円)	4.10	6.38	+2.28
EBITDA *1	220	225	+5
設備投資 *2	46	50	+3
減価償却費	139	114	-24
研究開発費	76	72	-5
FCF	-115	-132	-18

- 売上高：震災影響、不採算事業撤収で減収
- 営業利益増：高機能繊維の需要堅調
事業構造改革の発現
- 経常利益増：持分法投資損益改善
- 純利益増：特別損益改善

◇PL換算レート

	10年 1Q	11年 1Q
円/米ドル	91	82
円/ユーロ	126	113
米ドル/ユーロ	1.38	1.37

*海外会社の1Qは1～3月

◆特別損益等

(億円)	10年度 1Q	11年度 1Q	差異 金額
投資有価証券売却益	7	7	0
その他	1	2	+1
特別利益計	7	9	+1
事業構造改善費用	8	-	-8
震災関連費用	-	4	+4
その他	11	5	-5
特別損失計	18	10	-9
特別損益計	-11	-1	+10

法人税等	24	59	+35
少数株主損益	2	5	+3

➤ 特別損益改善: +10億円

- ・事業構造改善の完了
- ・震災関連費用 4億円
(固定費振替、その他損失等)

➤ 法人税等増加: +35億円

- ・「税金等調整前四半期純利益」の増加による法人税等の増加

◆財政状態

(億円)	11年3月末	11年6月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,615	7,820	+205	+115
自己資本	2,842	2,914	+72	+34
有利子負債	2,674	2,846	+172	+49

D/Eレシオ	0.94	0.98	+0.04
自己資本比率	37.3%	37.3%	-0.1%

- 総資産増加:
 - ・震災に伴う需要低迷により在庫増
- 自己資本増加:
 - ・四半期純利益、為替換算調整
- 有利子負債増加:
 - ・運転資金の増加

◆キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動 他	現金及び 現金同等物 増減
11年度 1Q	-80	-53	-132	+93	-39
10年度 1Q	-86	-29	-115	+79	-35

* キャッシュフローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◇BS換算レート

	10年 12月末	11年 3月末
円 / 米ドル	81	83
円 / ユーロ	108	118
米ドル / ユーロ	1.32	1.41

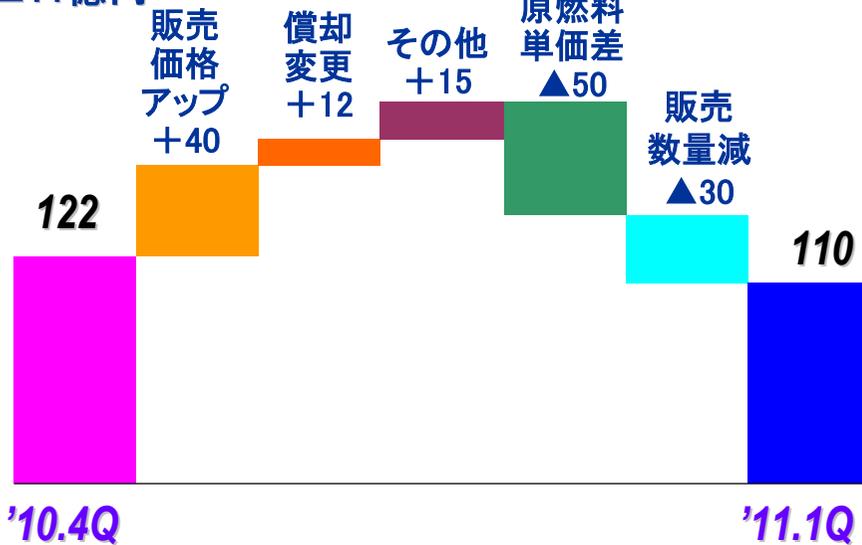
* 海外会社の1Qは1～3月

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

◇ 営業利益

(億円)

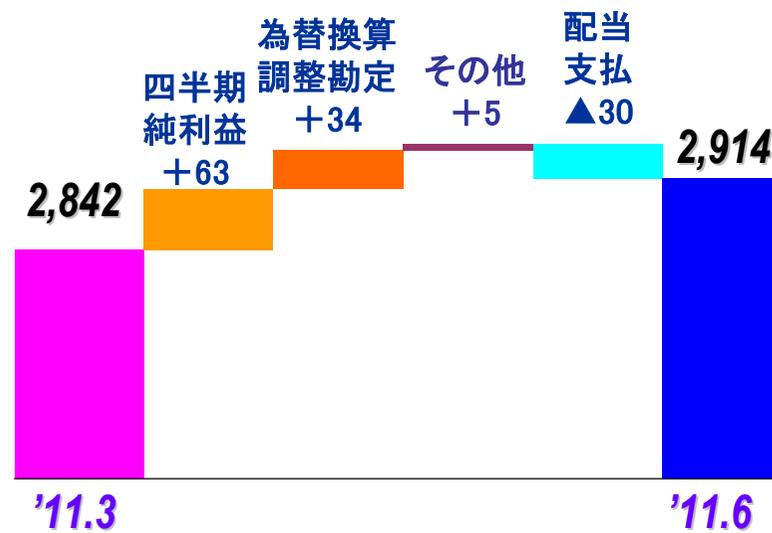
▲11億円



◇ 自己資本

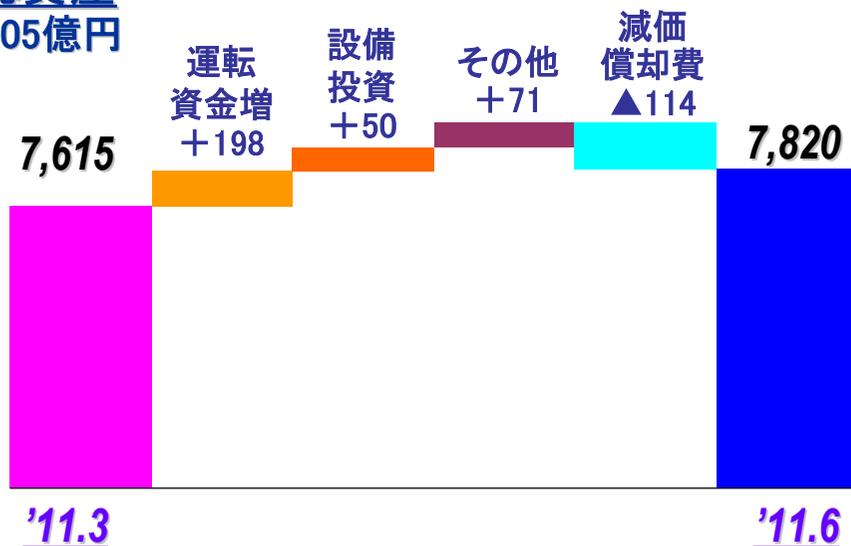
(億円)

+72億円



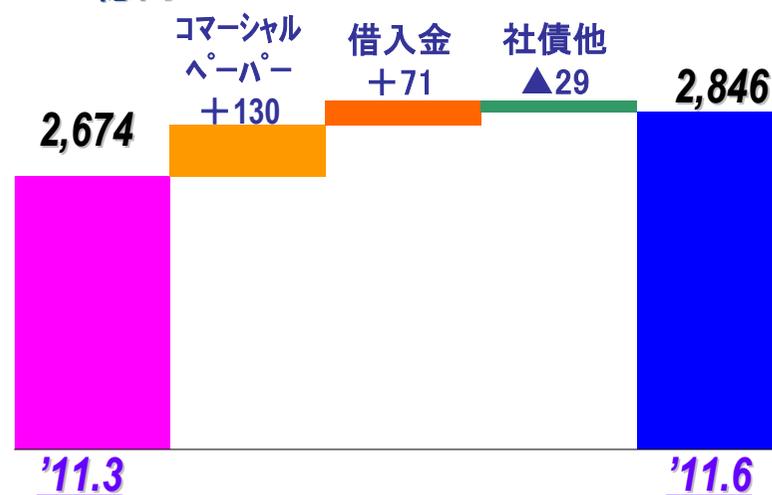
◇ 総資産

+205億円



◇ 有利子負債

+172億円



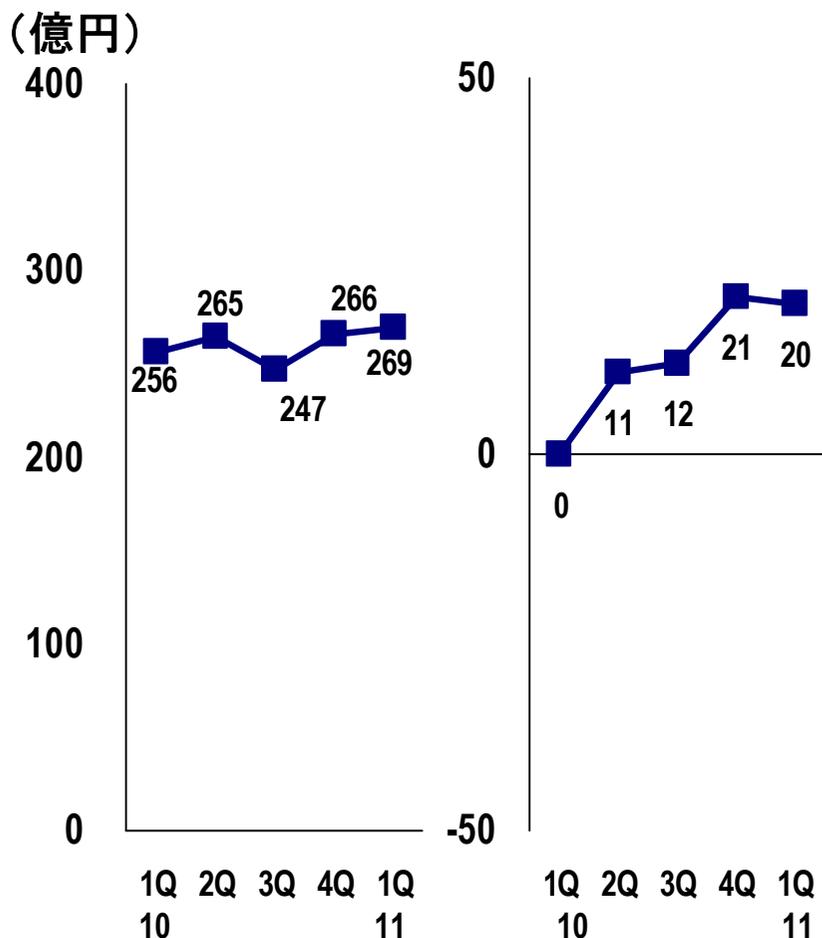
(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	10年度 1Q	11年度 1Q	差異	増減率	10年度 1Q	11年度 1Q	差異	増減率
高機能繊維	256	269	+13	+5.1%	0	20	+20	-
ポリエステル繊維	247	238	-9	-3.8%	0	5	+5	-
化成品	518	469	-49	-9.4%	36	32	-5	-12.8%
医薬医療	337	349	+12	+3.6%	69	72	+3	+5.0%
流通・リテイル	487	482	-6	-1.1%	7	10	+3	+46.7%
計	1,845	1,806	-39	-2.1%	113	139	+27	+23.6%
その他	81	90	+9	+11.0%	-1	3	+4	-
消去又は全社	-	-	-	-	-31	-32	-1	-
合計	1,926	1,896	-30	-1.6%	81	110	+30	+36.6%

①高機能繊維事業:増収・増益

売上高

営業利益



(億円)	10/1Q	11/1Q	差異	増減率
売上高	256	269	+13	+5.1%
営業利益	0	20	+20	-

◆事業概況・実施アクション

◇アラミド繊維:

- **パラアラミド繊維:**
自動車関連用途・防護用途・光ファイバーケーブル用途を中心に堅調な需要が継続
- **メタアラミド繊維:**
フィルター用途(中国)・自動車用途(欧州) 好調

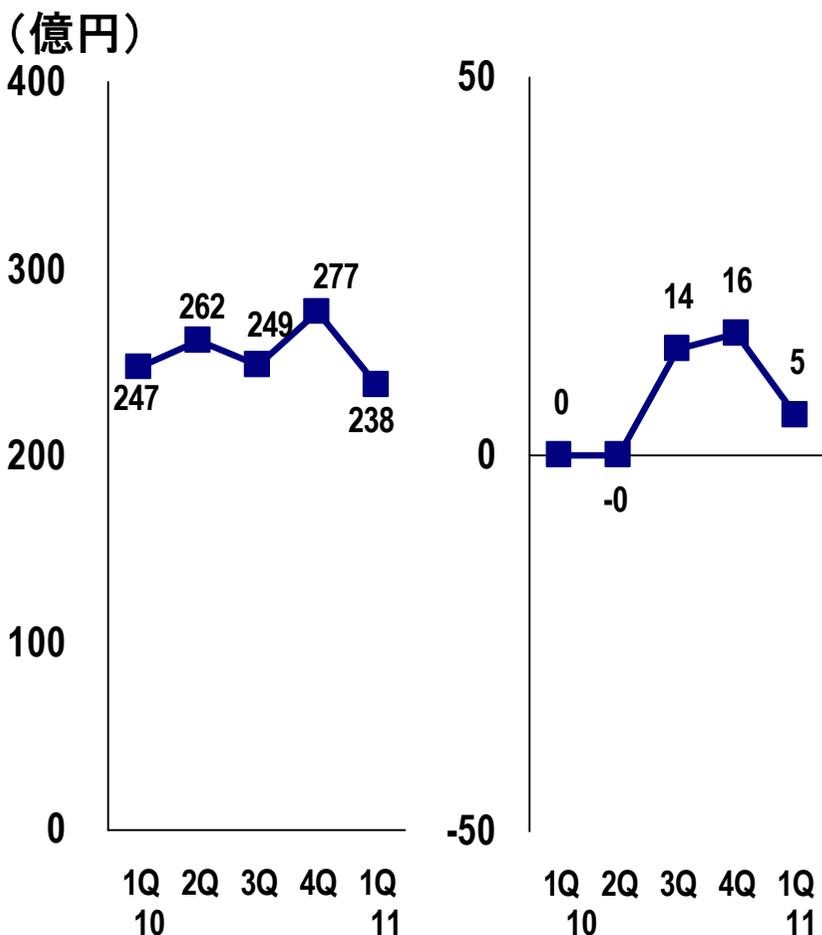
◇炭素繊維・複合材料:

- 各用途で需要回復基調、設備稼働率向上
- 航空機用途は需要旺盛、供給対応に注力
- スポーツ・レジャー用途堅調
- 熱可塑性複合材料の「1分以内成型」技術
自動車業界等からの関心大、取り組みを加速

②ポリエステル繊維事業：売上微減・収益確保

売上高

営業利益



(億円)	10/1Q	11/1Q	差異	増減率
売上高	247	238	-9	-3.8%
営業利益	0	5	+5	-

◆事業概況・実施アクション

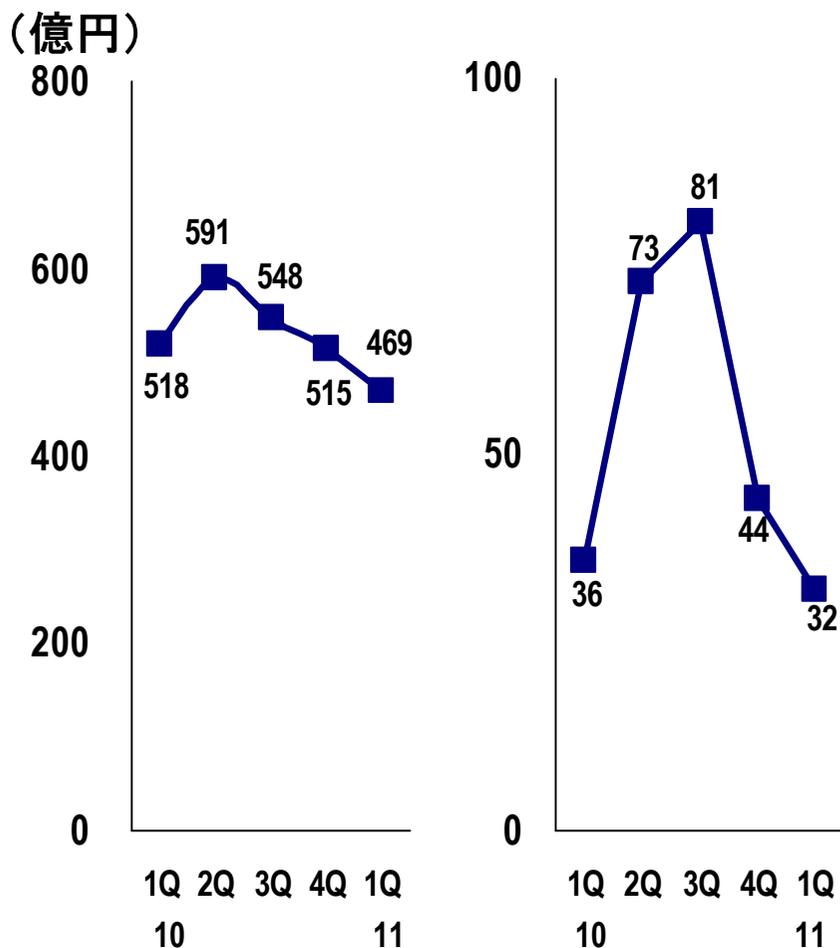
◇ポリエステル繊維：

- 震災影響により、自動車用途を中心に需要低迷
…本格回復は7月以降の見通し
- クールビズ等の節電需要、土木・建築資材等の復興需要の取り込みに注力
- バイオ由来PET繊維「PLANTPET」のグローバルでの本格展開を加速

③化成品事業：減収・減益

売上高

営業利益



(億円)	10/1Q	11/1Q	差異	増減率
売上高	518	469	-49	-9.4%
営業利益	36	32	-5	-12.8%

◆事業概況・実施アクション

◇樹脂:

震災影響で電気・電子機器や自動車向けの需要は減速

- PC樹脂:
 - ・ 主要原料価格が高値圏内で推移する中、販売価格の是正に注力
- 樹脂加工品:
 - ・ 開発品の採用は着実に増加
 - ・ 3Dメガネ向け位相差フィルム 高シェア維持

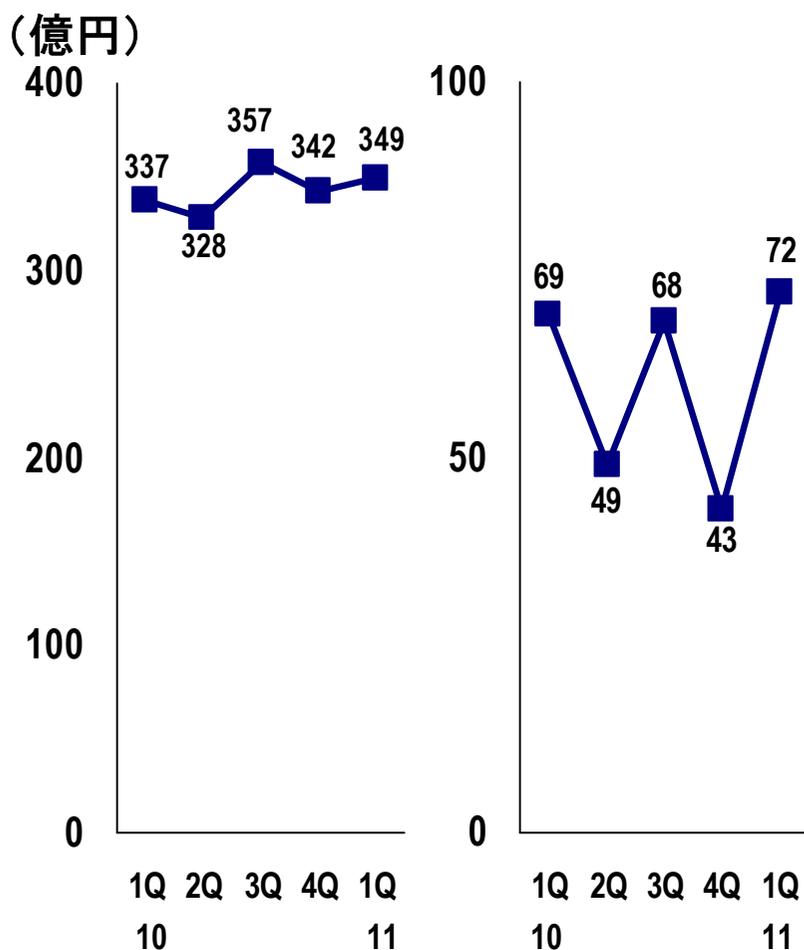
◇フィルム:

- PET国内: FPD・太陽電池向け堅調維持、宇都宮・茨城工場が一部被災・・・6月末までに操業再開
- PET欧米: 太陽電池向け等、需要減速の兆候

④ 医薬医療事業：増収・増益

売上高

営業利益



(億円)	10/1Q	11/1Q	差異	増減率
売上高	337	349	+12	+3.6%
営業利益	69	72	+3	+5.0%

◆ 事業概況・実施アクション

◇ 医薬品：

- 新規高尿酸血症治療剤
「フェブリク錠」 国内販売開始(5月)
～ 40年ぶりの期待の新薬
海外でも順調に販売エリアを拡大
- 変形性膝関節症の疼痛緩和剤
「サイビスクディスポ」(10/12月～)販売順調
- 「ボナロン*」堅調な推移
- 吸入ステロイド喘息治療剤「オルベスコ」
小児向け新規格を販売開始(4月)

◇ 在宅医療：

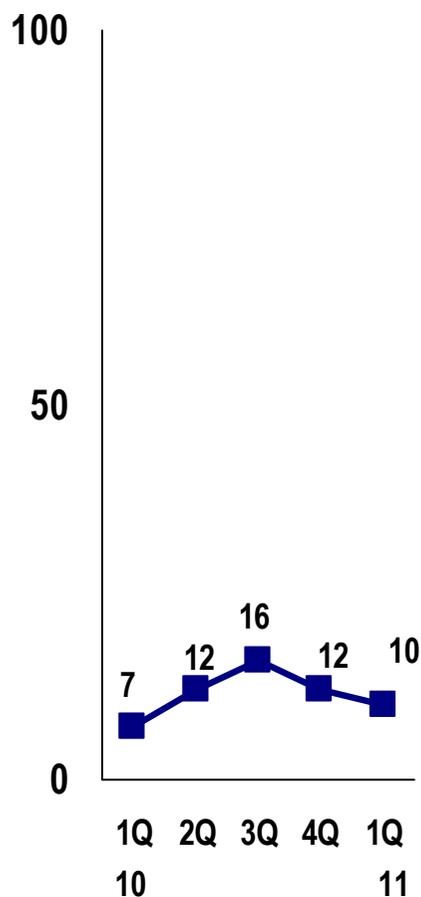
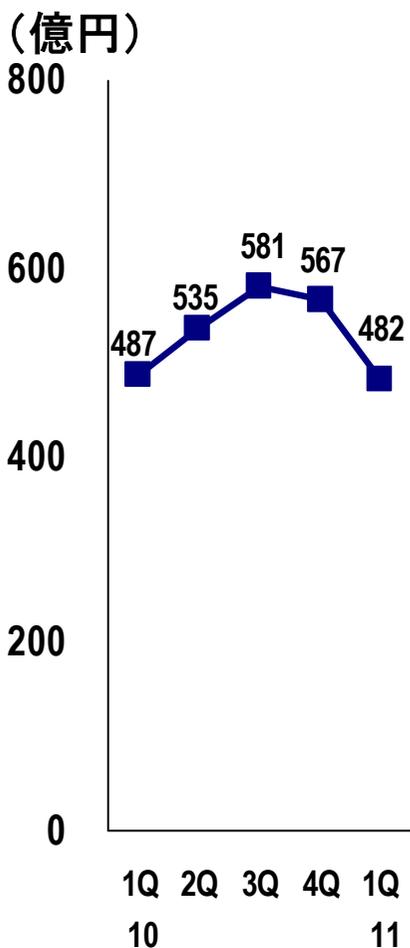
- HOT: 高水準のレンタル台数維持
- CPAP・SAFHS: 順調に推移
- 海外: 米国を中心にレンタル台数伸長

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。 11

⑤流通・リテイル事業:売上微減・増益

売上高

営業利益



(億円)	10/1Q	11/1Q	差異	増減率
売上高	487	482	-6	-1.1%
営業利益	7	10	+3	+46.7%

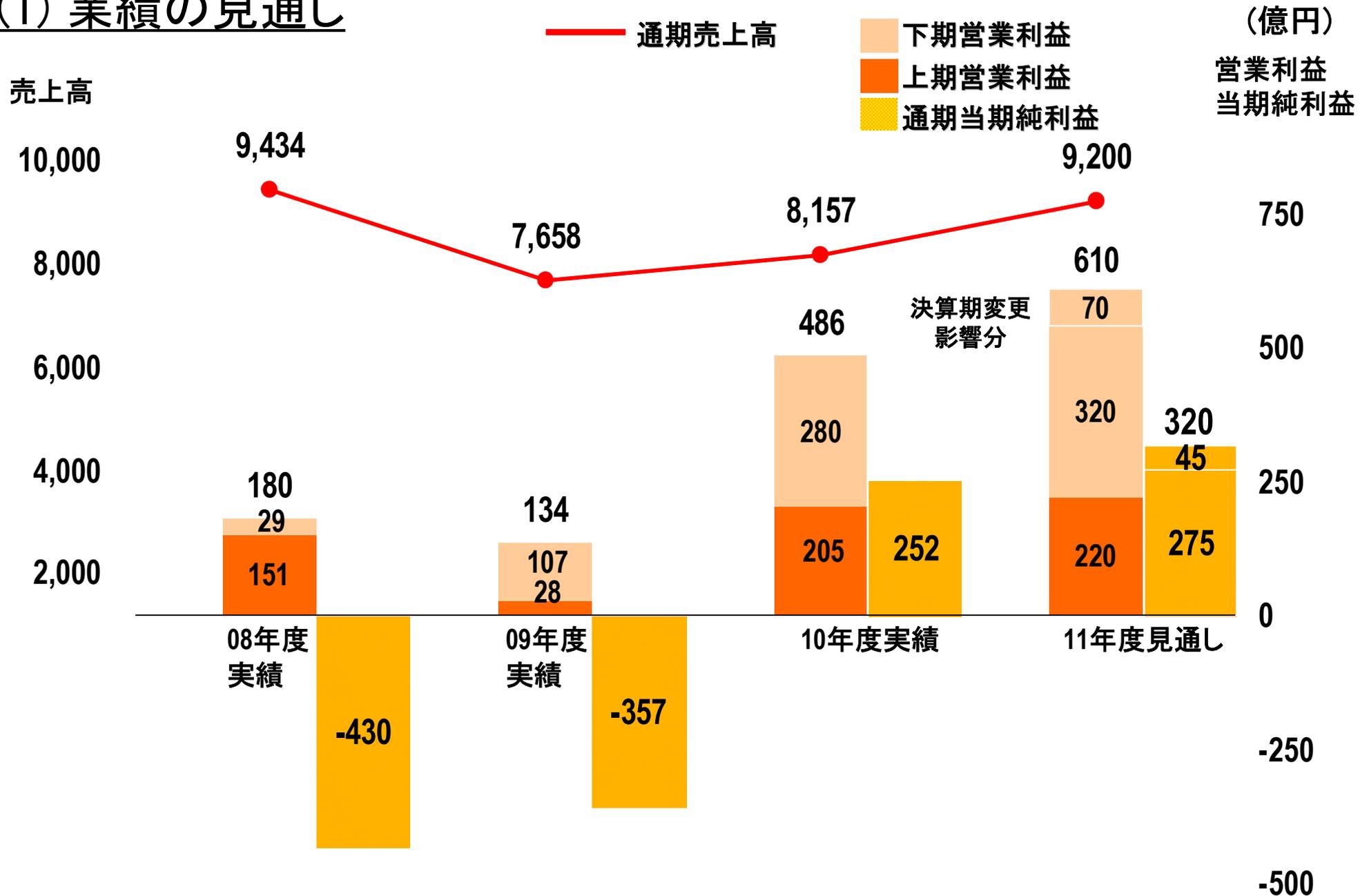
◆事業概況・実施アクション

◇流通・リテイル:

- 衣料繊維
 - ・ 量販店向けカジュアル衣料低迷
 - ・ 低採算取引の撤収、経費カットにより収益確保
 - 産業資材
 - ・ 震災影響により自動車関連等需要減退
 - ・ 一般資材、インテリア・リビングは好調
- 全体としては昨年並みの販売維持

通期業績見通し

(1) 業績の見通し



(2) 通期業績見直しの概況

(億円)	10年度 実績	11年度 見直し	差異	
			金額	%
売上高	8,157	9,200	+1,043	+13%
営業利益	486	610	+124	+26%
<営業利益率>	6.0%	6.6%	-	+0.6%
経常利益	503	610	+107	+21%
当期純利益	252	320	+68	+27%

2010年度配当及び2011年度配当予想

(円/株)	10年度 実績	11年度 見直し	差異
中間配当	2.0	3.0	+1.0
期末配当	3.0	3.0	-
年間配当	5.0	6.0	+1.0

EBITDA *1	1,050	1,160	+110
設備投資*2	292	450	+158
減価償却費	564	550	-14
研究開発費	315	330	+15
FCF	494	300	-194

(億円)	11年 3月末	12年 3月末	差異
総資産	7,615	7,800	+185
(在庫)	(1,055)	(1,100)	(+45)
有利子負債	2,674	2,500	-174

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

*2: 設備投資には無形固定資産を含む

■2011年度見直し前提

通期為替レート 米ドル = 81円
ユーロ = 115円

原油価格(Dubai) = 109米ドル/バレル

(3) セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

(億円)		10年度実績					11年度見通し			
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	下期	年間
売上高	高機能繊維	256	265	247	266	1,034	269	281	850	1,400
	ポリエステル繊維	247	262	249	277	1,035	238	312	650	1,200
	化成品	518	591	548	515	2,171	469	481	1,500	2,450
	医薬医療	337	328	357	342	1,364	349	351	800	1,500
	流通・リテイル	487	535	581	567	2,169	482	518	1,250	2,250
	計	1,845	1,980	1,982	1,966	7,773	1,806	1,944	5,050	8,800
	その他	81	93	80	129	383	90	110	200	400
合計	1,926	2,073	2,063	2,095	8,157	1,896	2,054	5,250	9,200 (800)*	
営業利益	高機能繊維	0	11	12	21	44	20	30	90	140
	ポリエステル繊維	0	-0	14	16	30	5	10	25	40
	化成品	36	73	81	44	234	32	33	135	200
	医薬医療	69	49	68	43	229	72	53	155	280
	流通・リテイル	7	12	16	12	47	10	10	30	50
	計	113	146	192	136	585	139	136	435	710
	その他	-1	10	2	20	31	3	7	20	30
消去又は全社	-31	-31	-35	-34	-131	-32	-33	-65	-130	
合計	81	124	159	122	486	110	110	390	610 (70)*	

* 括弧内の数字は決算期統一による影響額

(4) 主要経営指標

	07年度 実績	08年度 実績	09年度 実績	10年度 実績	11年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	6.5%	1.9%	1.6%	6.1%	8%
ROE：当期利益／自己資本 *1	3.3%	-12.3%	-12.4%	9.1%	11%
売上高営業利益率	6.3%	1.9%	1.8%	6.0%	7%
D/Eレシオ *2	0.83	1.18	1.18	0.94	0.8
自己資本比率	38.5%	35.0%	33.0%	37.3%	40%
1株当たり当期純利益(円)	13.2	-43.7	-36.3	25.6	32.5
1株当たり配当金(円)	8.0	5.0	2.0	5.0	6.0
総資産(億円)	10,160	8,742	8,231	7,615	7,800
有利子負債(億円)	3,252	3,613	3,203	2,674	2,500
EBITDA(億円) *3	1,278	853	753	1,050	1,160

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益＋減価償却費」にて算出

(5) 会計方針の変更について

【実施時期】 2012年3月期決算より

【実施範囲】 帝人グループ全ての連結子会社

a) 決算月を「3月」に統一

3月決算以外の子会社の決算月を変更、決算期ずれを解消

- 【目的】
- ・開示の適時性・適切性を担保するとともに、将来のIFRS導入に備える
 - ・業績管理(PDCAサイクル)の効率化を通じて、より迅速な判断とタイムリーなアクションに繋げる

(注)持分法適用会社については、その重要性や合併相手との協議により実施時期を個別に決定

b) 減価償却方法を「定額法」に統一

国内子会社で採用していた定率法を定額法に変更

- 【目的】
- ・意思決定における判断基準を統一するとともに、将来のIFRS導入に備える

(6) 東日本大震災後の状況変化と今後の見通し

用途・市場	状況と見通し
自動車	<p>メーカー各社の稼働率低下により、ポリエステル繊維事業、樹脂事業、流通・リテイル事業を中心に、需要が低迷</p> <p>稼働率は4～5月の50～55%を底に次第に回復し、第2四半期には80～90%レベルに、下半期には100%に戻ることを想定</p>
電気・電子 OA機器	<p>樹脂事業では、OA機器向けコンパウンド品を中心に、日本製部品の調達難から、日本・中国でユーザーの稼働率が大きく低下</p> <p>フィルム事業では、液晶TV等のFPD向け、太陽電池BS向けの需要が低迷</p> <p>用途・顧客によりバラつきはあるが、夏場以降緩やかに回復し、年度後半には100%稼働に戻ることを想定</p>
医薬医療	<p>全般的には順調ながら、被災地エリアの在宅医療にて、震災影響でレンタル台数がダウン</p>

(6)-2 震災に伴う業績影響

1) 営業利益への影響	45億円
-------------	------

喪失売上高に係わる機会損失	50億円
---------------	------

特別損失への固定費振替	△5億円
-------------	------

2) 特別損失	5億円
---------	-----

固定費振替、その他損失等	5億円
--------------	-----

1) + 2) 2011年度震災影響計	50億円
---------------------	------

(7) 当期重点課題(全社課題)

■～2010年度：事業構造改革への取り組み

■2011年度：成長軌道への回帰に向けたアクション

- 震災への対応と事業活動の速やかな復旧
- 「構造改革」の成果をフル発現
 - コスト競争力強化への取り組みは引き続き継続
 - 投入資源の総額抑制のスタンスは当面維持
- 効果的なリスク管理の継続
 - コンティンジェンシー・プランの作成
- 営業力の強化、研究開発基盤の強化
 - 徹底的な顧客志向
 - 製品パイプラインの充実
 - 製品の高度化と川中・川下分野の強化
- 有望な投資・プロジェクトへの積極的な取り組み
- 『[新中期経営計画](#)』の策定（2012年2月公表予定）

『[持続的成長](#)』へ

(7)-2 当期重点課題と新規プロジェクト(事業別)

アラミド繊維	<ul style="list-style-type: none"> ● ボトルネックの解消による生産能力アップ ● 現状シェアを維持しながらの販売価格アップ ● 高機能ポリエチレンの市場開拓 	<p>◆ 震災復興需要の最大限の取り込み</p> <p>◆ 自動車生産等の回復に即応した販売回復</p>
炭素繊維・複合材料	<ul style="list-style-type: none"> ● 熱可塑性複合材料の技術・用途開発の強化 ● 次世代技術の早期確立 ● 熱硬化複合材事業の収益改善 	
ポリエステル繊維	<ul style="list-style-type: none"> ● タイ子会社での日本からの移管銘柄の円滑な生産継続 ● 原料価格下降局面での販売価格維持 	
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> ● 原料価格高止まりに対応した販売価格の是正 ● 樹脂加工品事業の拡大に向けた技術開発の推進 ● 自動車用グレージングの拡大 	
フィルム	<ul style="list-style-type: none"> ● 主力用途でのシェアの維持と販売価格の是正 ● FPD等の成長製品の生産能力増強 	
医薬医療	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規高尿酸血症治療剤の早期拡販とグローバル展開加速 ● サイビスクディスポの早期拡販 ● 海外在宅医療事業の収益力強化 	
流通・リテイル	<ul style="list-style-type: none"> ● アジアでの生産拠点の充実による商圈の拡大 	
IT	<ul style="list-style-type: none"> ● 顧客のニーズに合致するソリューションの創出 	

(8) 新規事業開発の状況

① 熱可塑性CFRP(炭素繊維複合材料)

欧州 CO₂排出規制の強化

⇒ 「軽量化」「EV化」などの技術革新が重要テーマに

**量産技術の確立 ;
世界初の「成形時間1分以内」を達成**

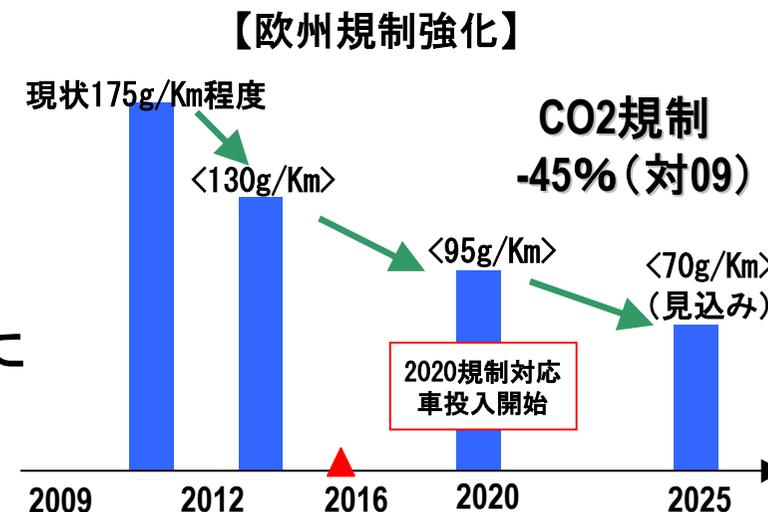
*「フロスト&サリバン イノベーション・アワード」受賞

・高い生産性・低コストを実現

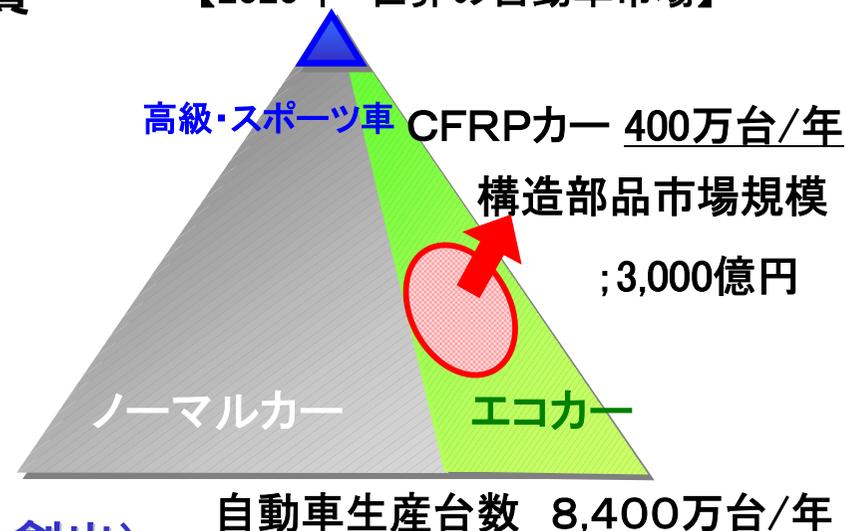
・部品同士の接着容易化

・リサイクルも可能に

⇒ 車体骨格を極限まで軽量化したCFRP構造体を、
エコカー(汎用車レベル)に採用へ **(新規市場の創出)**



【2020年 世界の自動車市場】



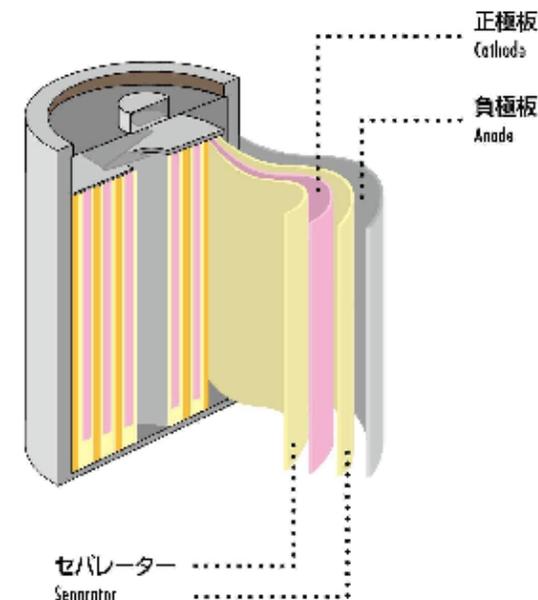
出典: 富士経済

将来の量産化を見据えた技術開発を加速

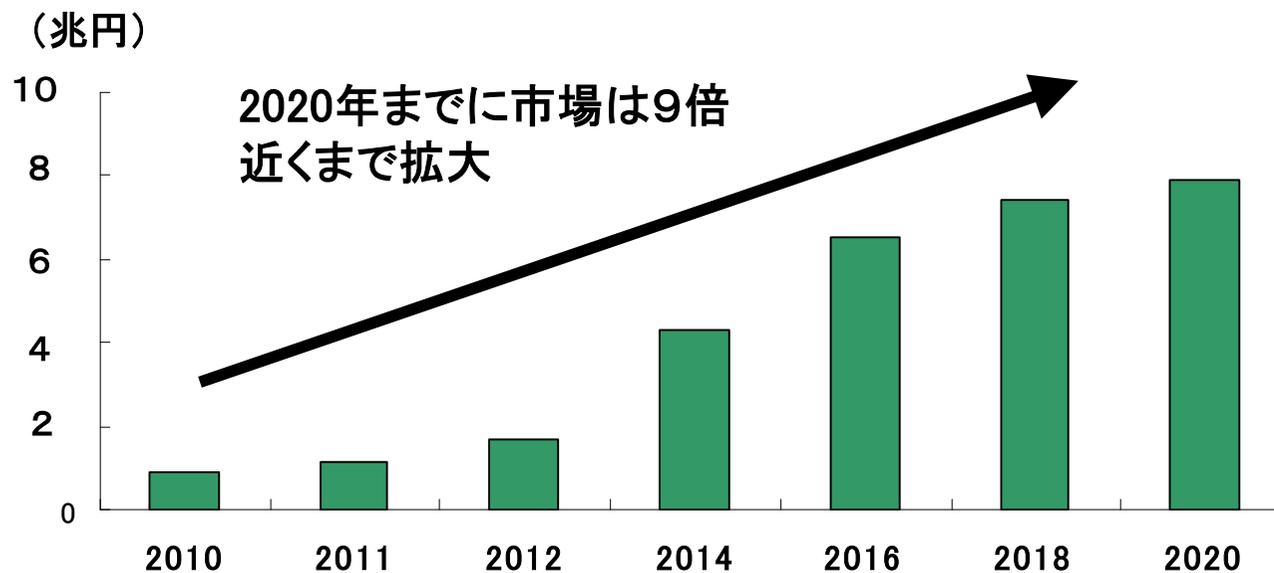
②LIB (リチウムイオン電池) セパレータ

LIBの高エネルギー化、ハイパワー化
⇒発火事故を防ぐより高い安全性へのニーズ

- ・アラミド層をコーティングしたセパレータの開発により
高い「耐久性」「耐熱性」を実現



【リチウムイオン電池市場予想 (パソコン/携帯+自動車)】



パソコン/携帯・自動車用LIBを中心に市場拡大期待

③水処理事業

グローバルでの水資源不足・水質汚染の深刻化
⇒高まる水循環利用や水処理の高度化のニーズ

生物処理技術



MSABP

高度処理技術



HiPOx

ELCAT

【採用実績等】

MSABP

- 信越化学工業(中国工場)
- アンゴラ排水処理施設
- 日本化薬グループ企業(中国)
- 日本下水道事業団と共同で
有用性を実証

HiPOx

- シンガポール公益事業庁との
取り組み
⇒「日本オゾン協会 技術賞」受賞

プラントエンジニアリング・水質分析
コンサルティング

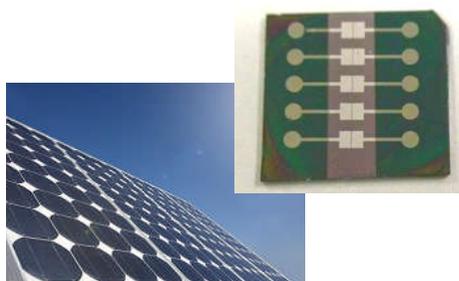
総合排水処理ソリューションの提供へ

④半導体用ナノシリコンインク

太陽電池、液晶ディスプレイの軽量化・薄型化・フレキシブル化
⇒プリントドエレクトロニクスの高注目

- ・汎用プラスチック上でシリコン半導体を形成する技術を開発
- ・米ナノグラム社（2010年7月買収）

世界で唯一 レーザー熱分解法を用いたナノ粒子材料の製造技術
中核材料となる半導体用シリコンインクの開発

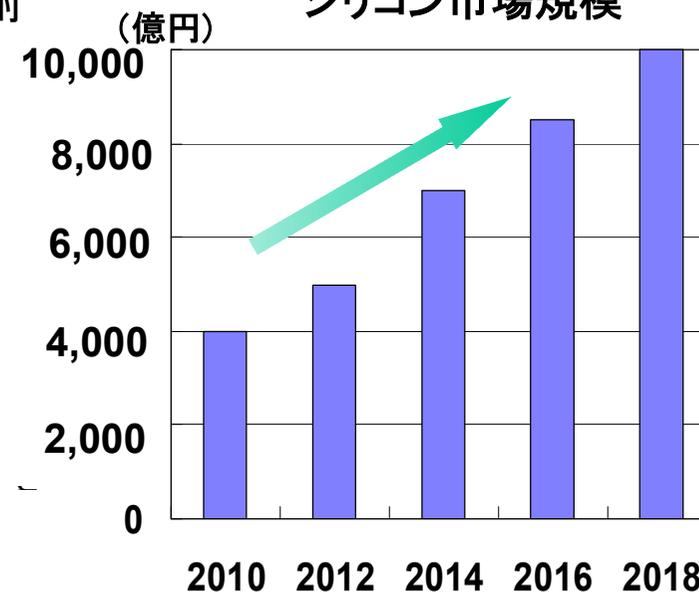


半導体・太陽電池素子の製造コスト大幅低減を可能に

シリコンデバイスの市場へ参入



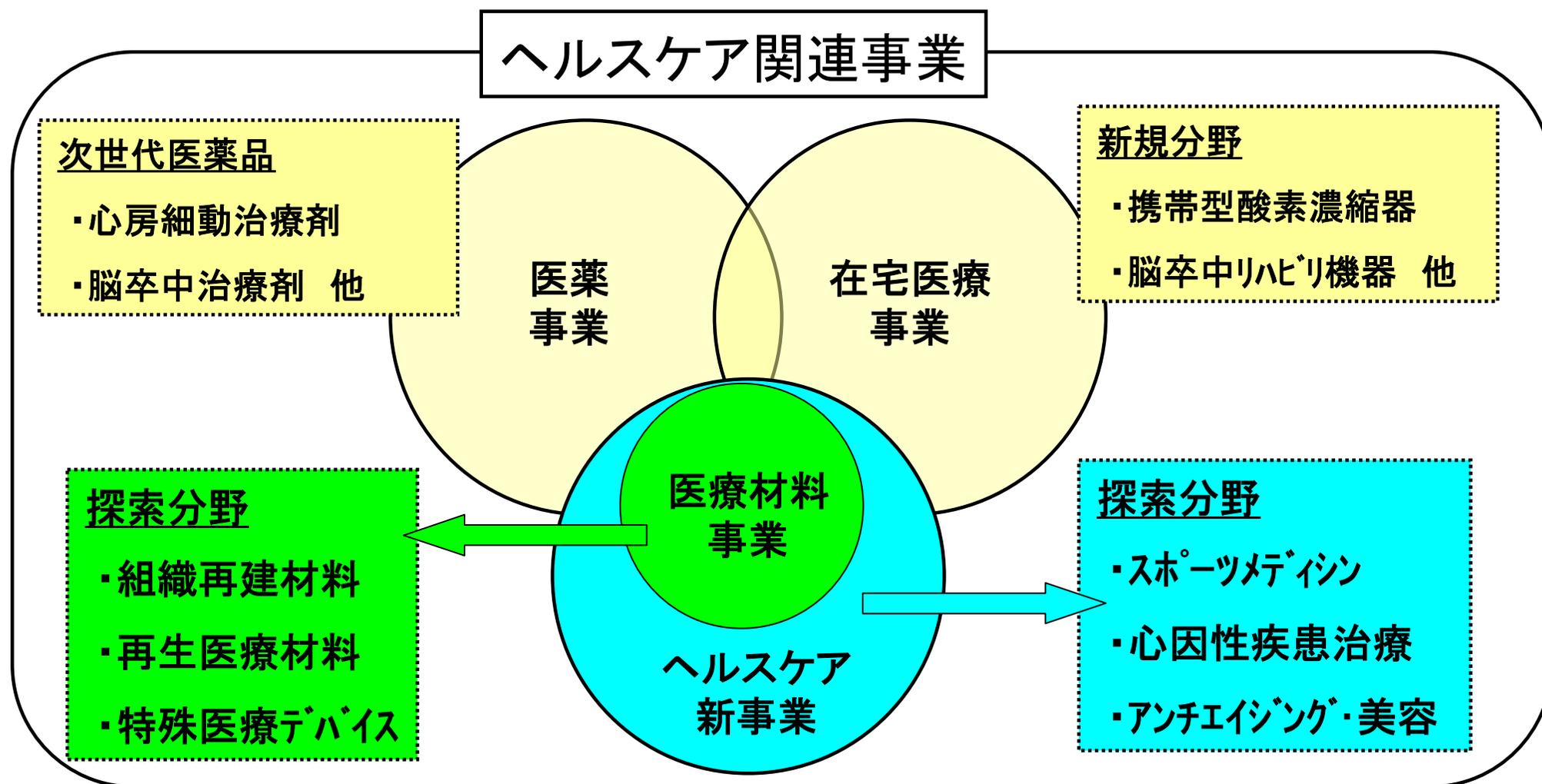
半導体・太陽電池向け
シリコン市場規模



(当社推定)

⑤ヘルスケア新事業

既存事業での新規分野＋融合領域（先端医療材料他）



新たなヘルスケア事業の展開へ

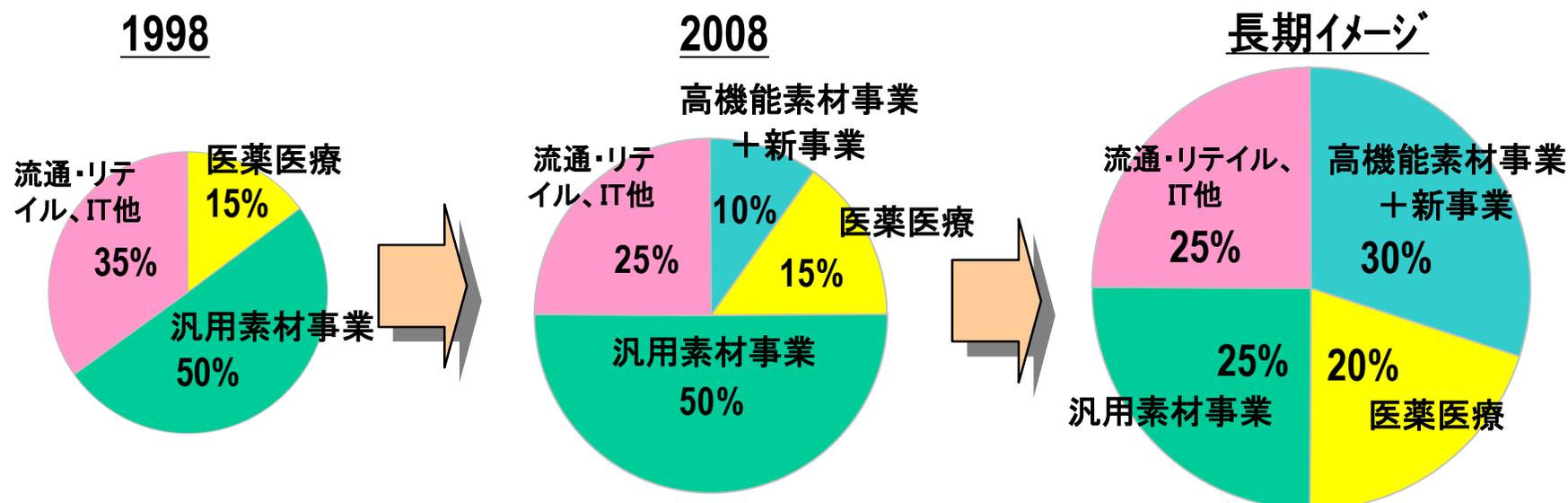
(9) 新中期経営計画の策定

➤ 中長期の経営ビジョンの策定：長期的視点での「ありたい姿」

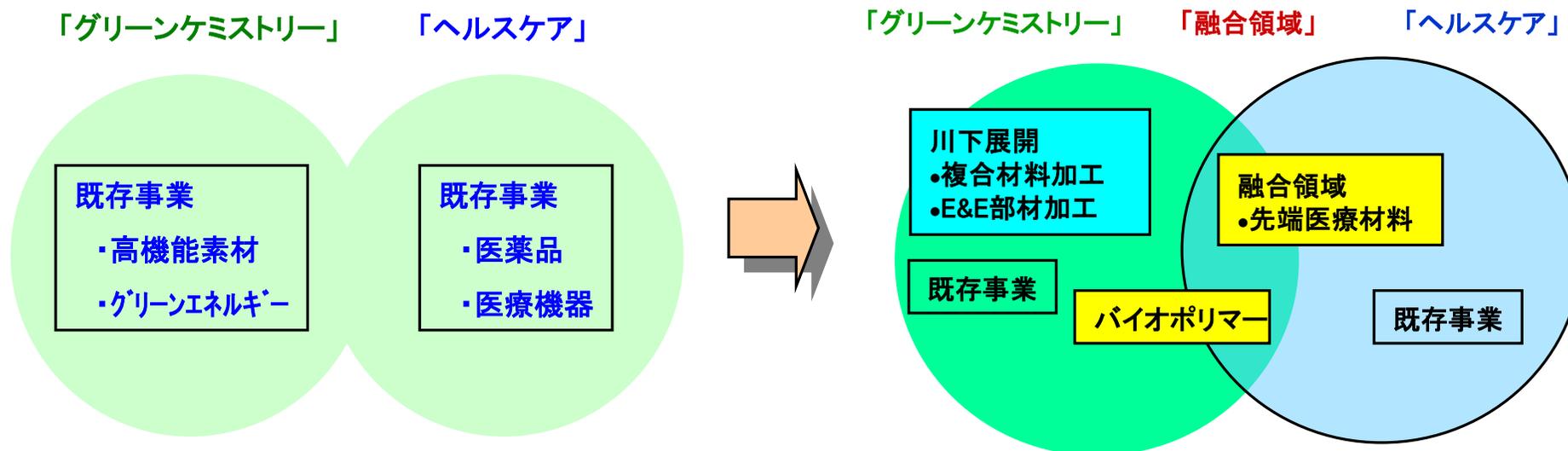
- ・事業活動を通じた社会への貢献
- ・利益を伴う持続的な成長
- ・グローバル・エクセレンスの獲得

➤ 3つのポートフォリオ変革

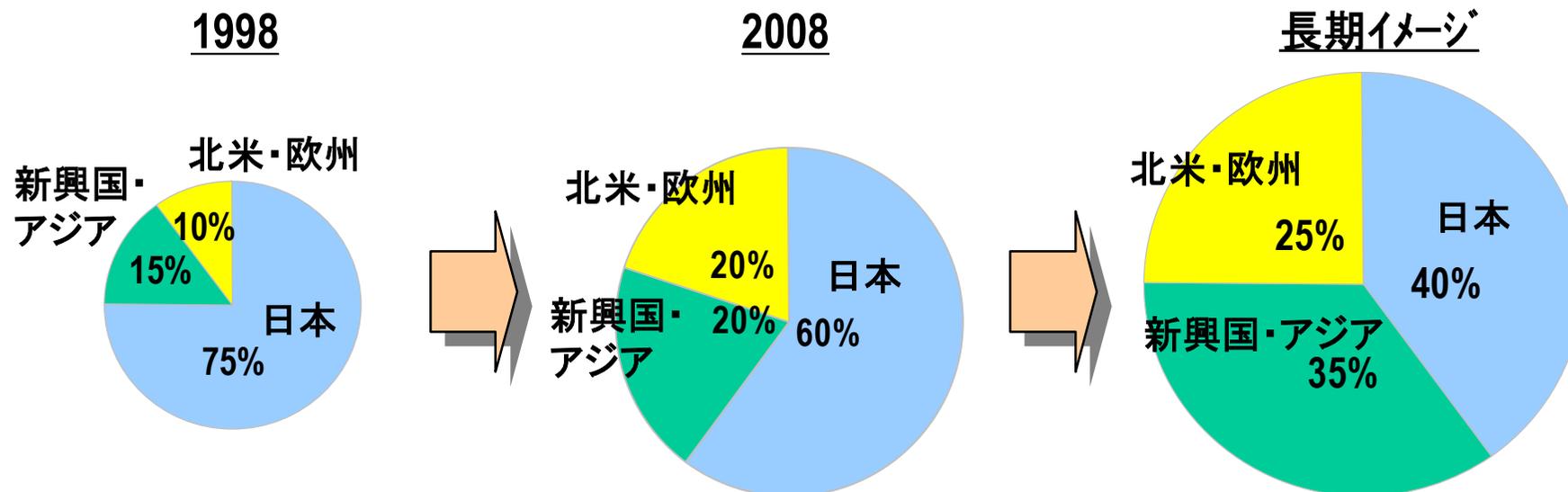
【事業ポートフォリオ】 高機能素材・ヘルスケアを中心とした拡大



【技術ポートフォリオ】高機能素材分野での川下展開の推進、医療材料など融合領域の育成



【地域ポートフォリオ】中国を中心とした新興国での事業拡大



- 成長エンジンの確認と重点化領域の特定
 - ・既存ビジネスの徹底強化
 - ・グローバル・オペレーションの強化
 - ・コスト競争力の強化
 - ・新規ビジネスの創出
- 技術を核とする成長と、それを支える基盤（人財・組織）の整備
 - ・個別最適から全体最適の実現
 - ・事業のインキュベーション機能の強化
- 揺るぎないガバナンスの維持

2012年2月上旬に公表予定

見通しに関する注意事項と事業等のリスク

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

医薬医療事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2011年8月1日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆ 連結貸借対照表

(億円)	10年 3月末	10年 6月末	10年 9月末	10年 12月末	11年 3月末	11年 6月末
資産 合計	8,231	8,055	7,767	7,919	7,615	7,820
流動資産	3,327	3,315	3,264	3,450	3,369	3,583
固定資産	4,903	4,741	4,503	4,469	4,246	4,238
負債・純資産 合計	8,231	8,055	7,767	7,919	7,615	7,820
負債	5,278	5,098	4,825	4,863	4,538	4,683
(内 有利子負債)	3,203	3,299	3,059	2,932	2,674	2,846
純資産	2,953	2,957	2,943	3,056	3,077	3,138

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	10年度				11年度	10年4Q 11年1Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
売上高	1,926	2,073	2,063	2,095	1,896	-199
売上原価	1,406	1,495	1,454	1,508	1,339	-169
売上総利益	520	578	608	587	557	-30
販管費	440	454	449	466	447	-19
営業利益	81	124	159	122	110	-11
営業外損益	-3	3	10	8	18	+10
(内 金融収支)	-6	-9	-7	-9	-4	+4
(内 持分法投資損益)	9	17	22	15	26	+11
経常利益	78	127	169	129	128	-1
特別損益	-11	-2	-5	-40	-1	+39
税前利益	67	125	164	89	127	+38
法人税等	24	45	65	28	59	+31
少数株主損益	2	5	15	9	5	-4
当期純利益	40	75	85	52	63	+11

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆営業外損益

(億円)	10年度 年間	11年度 1Q
受取利息	5	1
受取配当金	9	4
持分法による投資利益	63	26
為替差益	1	-
雑収入	9	3
営業外収益 計	87	34
支払利息	44	10
為替差損	-	2
寄付金	7	-
雑損失	18	4
営業外費用 計	69	16
営業外損益 計	18	18

◆特別損益

(億円)	10年度 年間	11年度 1Q
固定資産売却益	14	-
投資有価証券売却益	22	7
その他	5	2
特別利益 計	41	9
固定資産除売却損	6	0
減損損失	18	-
事業構造改善費用	10	-
震災関連費用	29	4
その他	37	5
特別損失 計	100	10
特別損益 計	-59	-1

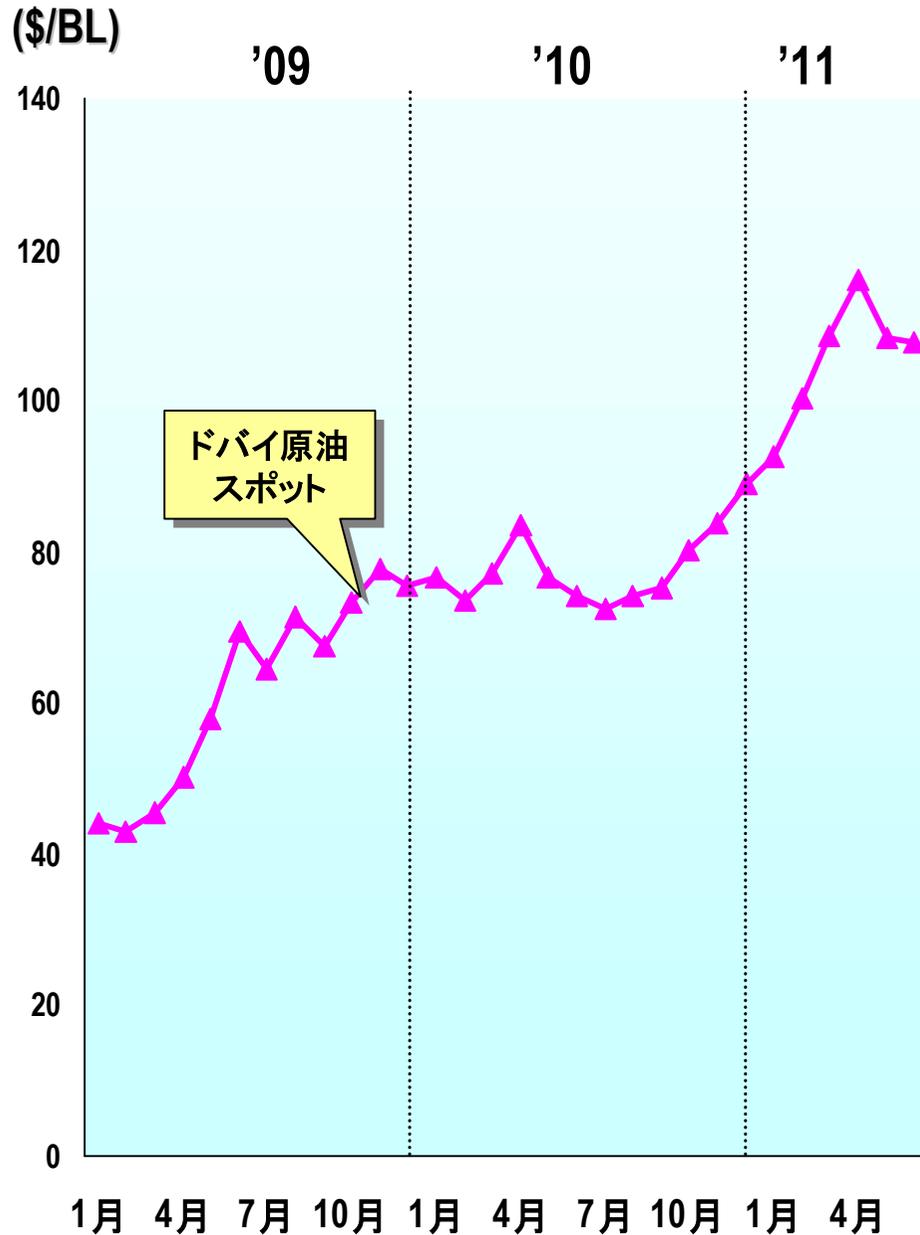
◆2011年度通期業績見通し

(億円)	10年度実績					11年度見通し			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	下期	年間
売上高	1,926	2,073	2,063	2,095	8,157	1,896	2,054	5,250	9,200
営業利益	81	124	159	122	486	110	110	390	610
経常利益	78	127	169	129	503	128	107	375	610
当期純利益	40	75	85	52	252	63	52	205	320

EBITDA *	220	266	300	264	1,050	225			1,160
減価償却費	139	141	141	143	564	114			550
研究開発費	76	77	78	83	315	72			330
FCF	-115	198	76	335	494	-132			300

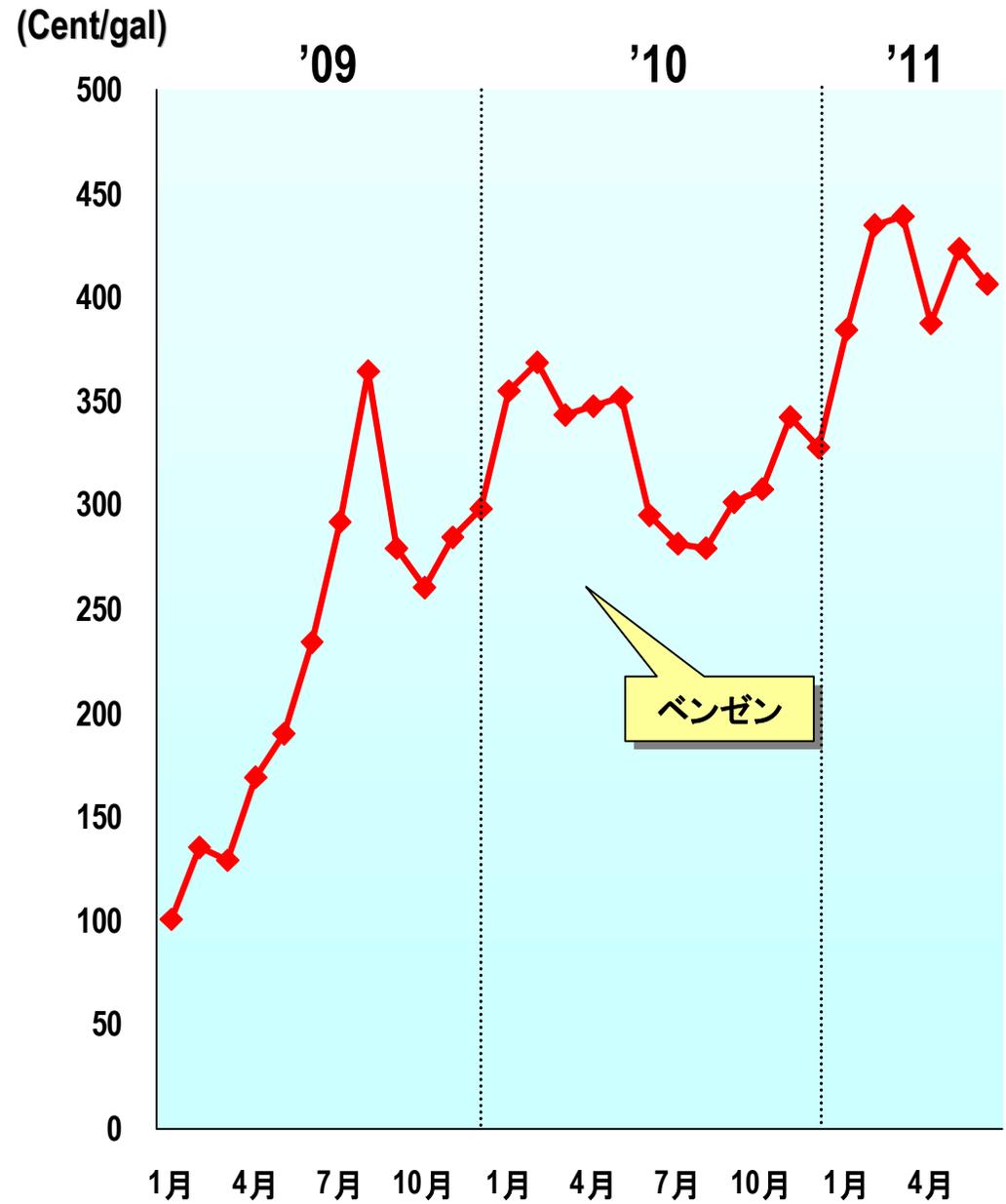
*EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

◆ドバイ原油価格推移



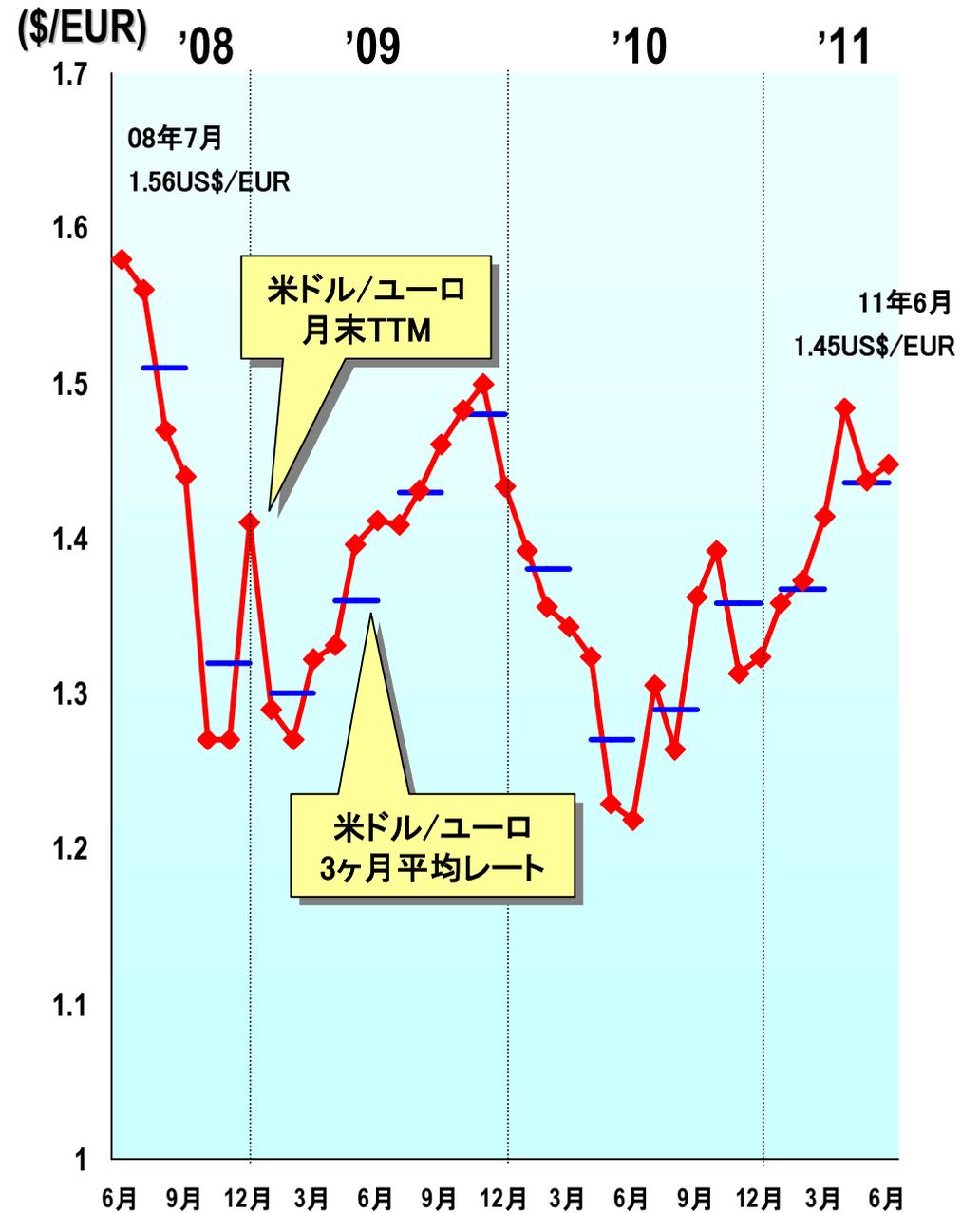
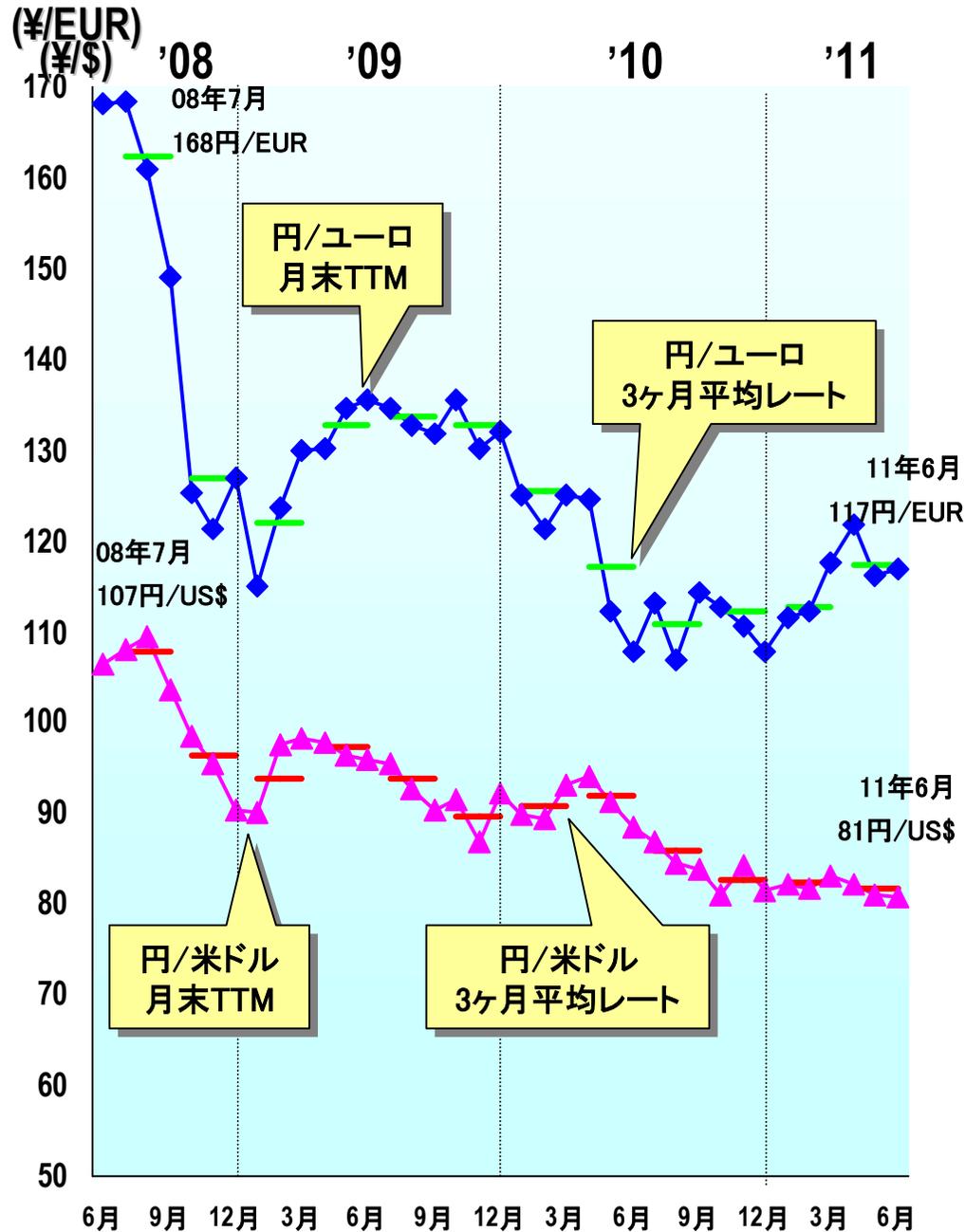
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ベンゼン価格推移

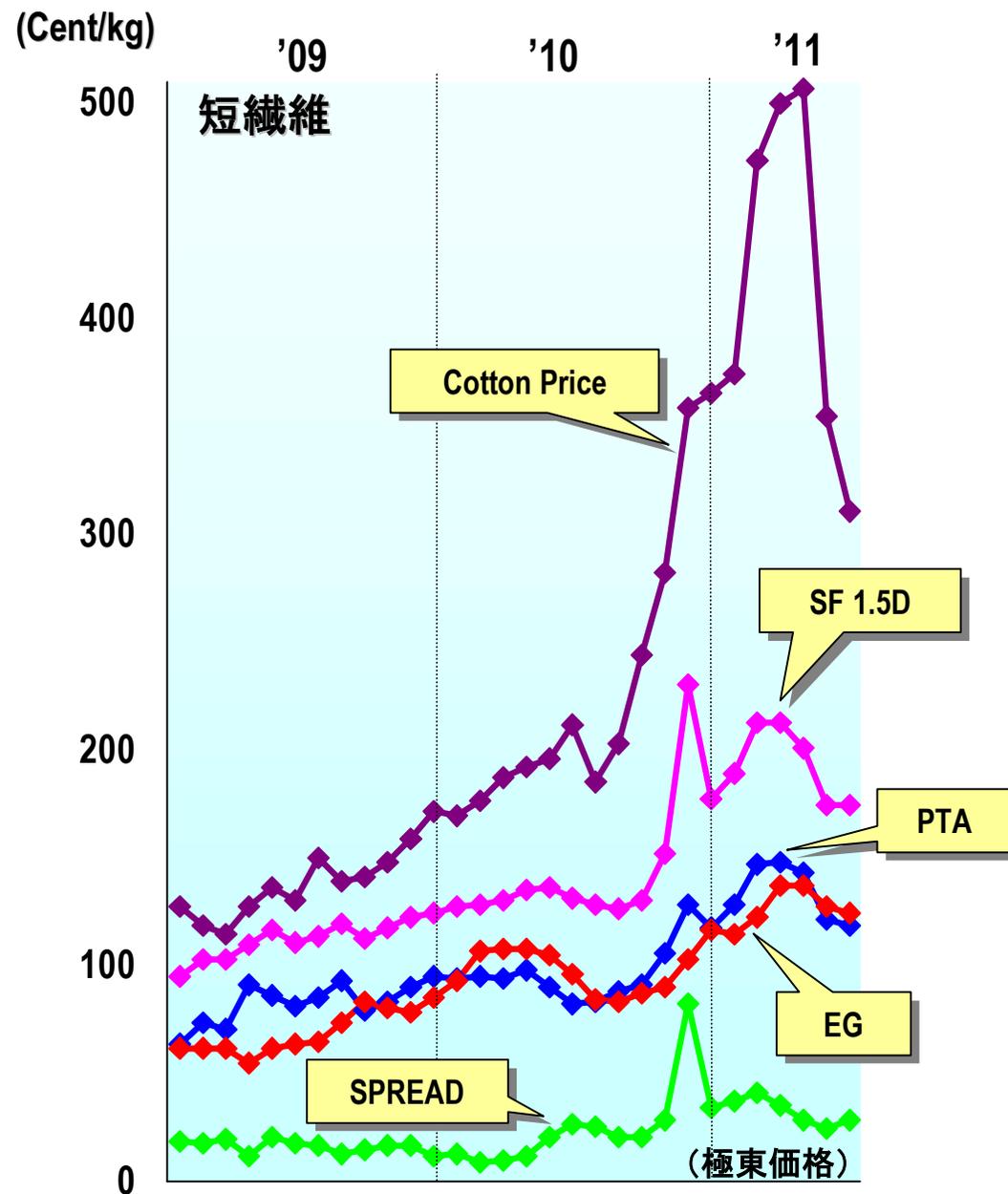
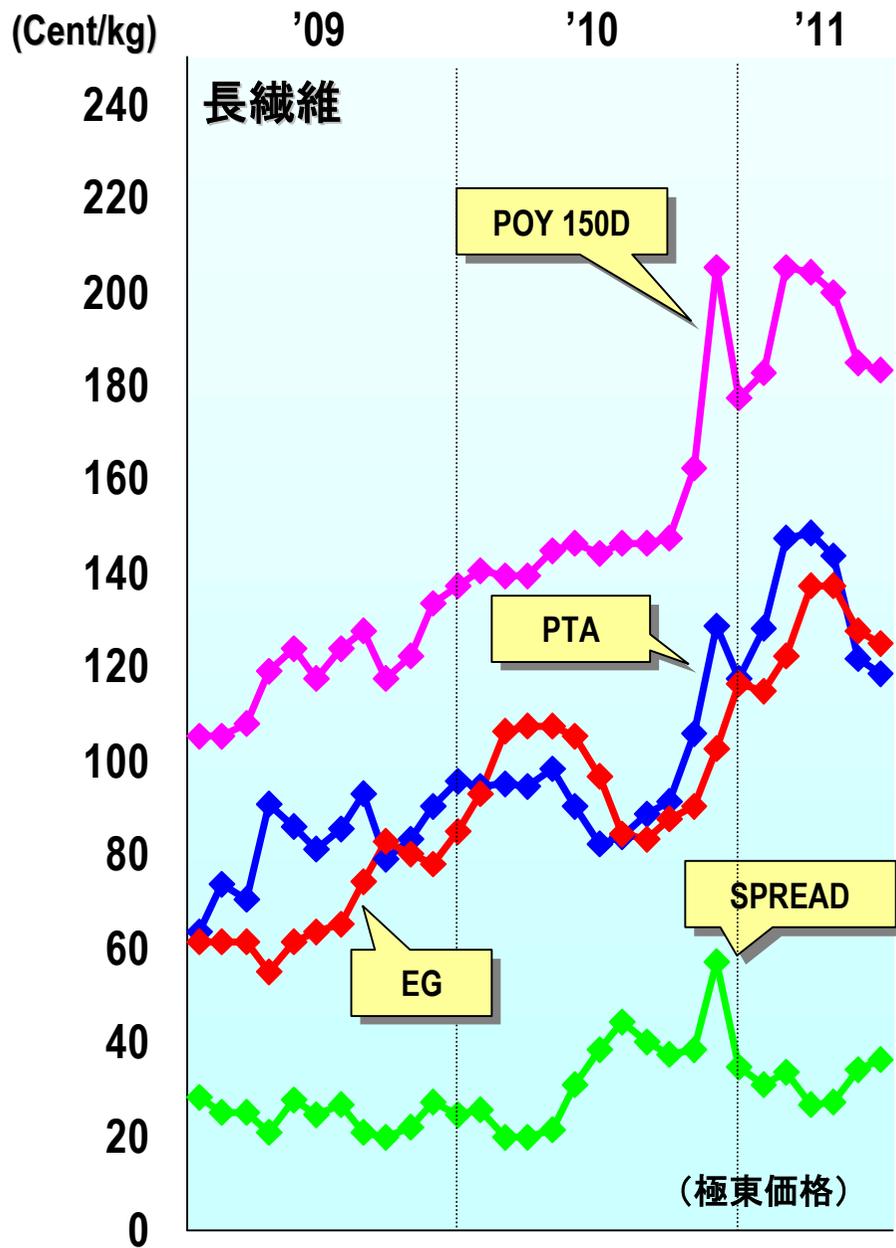


【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆円 / 米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆ポリエステル繊維売値・原料価格推移



1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月 1月 4月
【出所:PCIのDATAを基に弊社推定】

◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	適応症	10年度					11年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q
ボナロン	骨粗鬆症治療剤	52	52	58	48	210	52
ワンアルファ	骨粗鬆症治療剤	29	28	31	26	114	27
骨粗鬆症治療剤計		81	80	89	73	324	79
ムコソルバン	去痰剤	25	21	29	24	100	24
ベニロン	重症感染症治療剤	24	23	24	20	91	23
ラキソベロン	緩下剤	11	11	12	10	44	10
トライコア	高脂血症治療剤	4	4	4	5	18	3
ボンアルファ	角化症治療剤	4	4	5	3	16	3
オルベスコ	喘息治療剤	3	3	4	3	12	3
スピロペント	気管支拡張剤	3	2	3	2	10	2
サイビスクディスポ	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	-	-	2	5	7	4
フェブリク	高尿酸血症治療剤	-	-	-	-	-	5

*ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆疾患分野別臨床開発段階 (2011年6月末現在)

*承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域	ITM-058 GTH-42J			GTH-42V *1	
呼吸器 領域					BTR-15K *2 (適応追加:小児)
代謝・ 循環器領域		ITM-077 NTC-801	ITM-014		TMX-67 *3
その他		GGs *4 [ベニロン] (適応追加: 顕微鏡的多発血 管炎)	GGs [ベニロン] (適応追加: 多発性硬化症)	TV-02H *5 [ボンアルファハイ軟膏] (中国)	

*1 GTH-42Vは2011年2月に承認申請、*2 BTR-15Kは2011年1月に小児への適応追加の承認取得、*3 TMX-67は2011年1月に日本における製造販売承認を取得、*4 GGS(ベニロン)の顕微鏡的多発血管炎への適応拡大の臨床開発に着手、*5 TV-02H(中国)は2010年9月にPhase III(輸入許可取得試験)試験報告書を中国国家食品薬品监督管理局に提出・申請(低濃度製剤に対する補充申請)

◆新規上市医薬品 (2011年6月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
サイビスクディスポ関節注2mL (ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマー、ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマービニルスルホン架橋体)	変形性膝関節症	変形性膝関節症の疼痛緩和剤。健常人の関節液中に含まれるヒアルロン酸と同等程度の分子量を有しているため、関節内注入により関節液の機能を一時的に高め、衝撃吸収機能などを改善し、疼痛を緩和する。既存薬剤に比べ、少ない投与回数で効果が長期間持続する。	注射	独占販売権供給元: 米国ジェンザイム 2010年12月14日に国内販売開始
フェブリク (フェブキソスタット)	高尿酸血症	プリン骨格を持たない新しい尿酸生成抑制剤。1日1回服薬で血清尿酸値を治療目標値まで低下させ、維持することが可能。軽度・中等度の腎機能低下がある場合にも用量調節の必要がなく、多くの患者に使用できると期待される。	錠剤	自社品、2011年1月21日に日本における製造販売承認を取得 2011年5月17日に国内販売開始
オルベスコ 小児用 (シクレソニド)	気管支喘息	既に発売している喘息治療用吸入ステロイド剤(オルベスコ)の小児適用。小児気管支喘息に対して国内で初めての1日1回の用法。既存の吸入ステロイド剤と同等以上の効力を有し、全身性及び局所性副作用の低減が期待できる。	吸入	導入元:スイス ニコメッド社 2011年1月21日に小児への適応追加の承認を取得 2011年4月7日に国内販売開始

◆新規開発医薬品 (2011年6月末現在)

【申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TV-02H (タカルシトール水和物)	尋常性乾癬	国内販売しているボンアルファハイ軟膏20 μ g/gを中国に導出。既に中国で上市・販売している低濃度製剤(2 μ g/g)に加えることで、当該適応症における治療選択肢の幅を広げることができる。	軟膏	2010年9月低濃度製剤に対する補充申請(中国)
GTH-42V (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)の注射剤。 経口剤を服用できない患者等への処方が可能となり、服薬コンプライアンスの改善や経口剤に比べて上部消化管障害の低減が期待される。	注射	導入:米メルク社 2011年2月承認申請

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGS (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	多発性硬化症	本剤の免疫調節作用で多発性硬化症に伴う神経症状の再発頻度を減少させて患者の長期予後を改善する。 副作用・コンプライアンスの面で既存薬の継続投与が困難な患者の第1選択薬となり得ると期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
ITM-014 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症	先端巨大症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入:仏イプセン社

【Phase II】

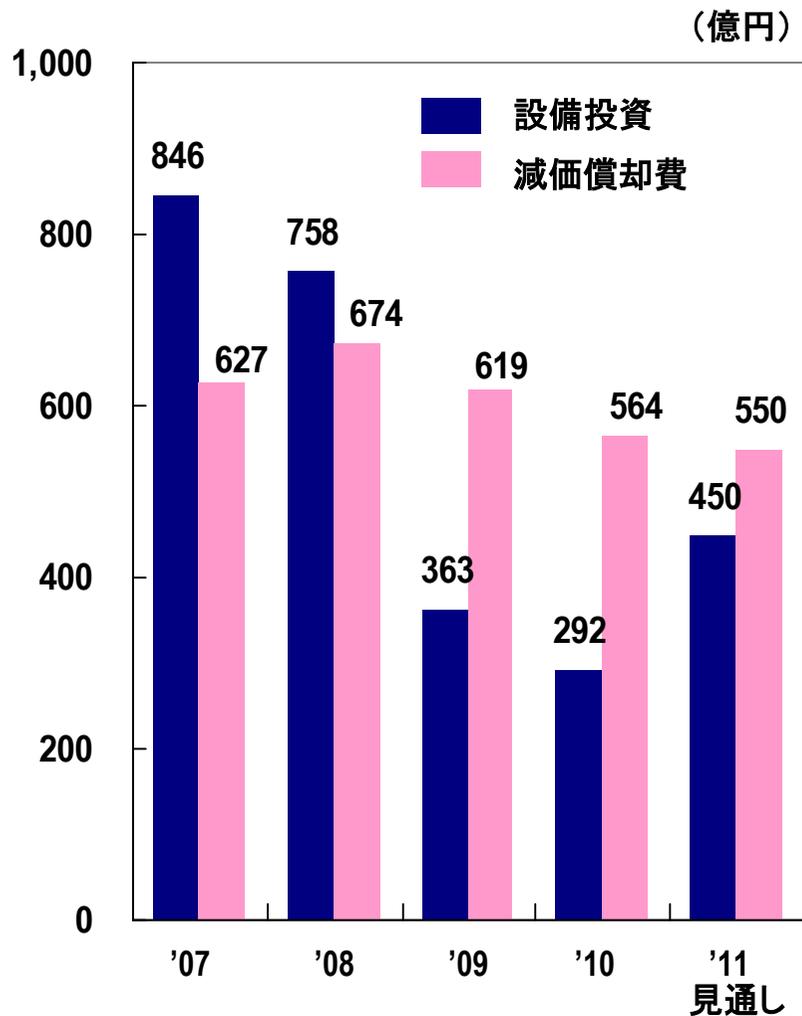
開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-077 (Taspoglutide)	2型糖尿病	血中グルコース濃度に依存したインスリン分泌促進作用による血糖コントロール薬。低血糖リスクが少なく、体重減少作用を有する。 週1回投与が可能であり、利便性に富む。そのほか、インスリンを分泌する膵臓ベータ細胞の保護および再生作用が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社 共同開発: 中外製薬
NTC-801	心房細動・粗動	心房選択的な心房細動・粗動の治療並びに予防薬。 既存薬の問題点である心室性副作用(不整脈誘発作用、心機能抑制作用)が無いことが期待される。	経口	共同開発: 日産化学工業
GGS (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)

【Phase I】

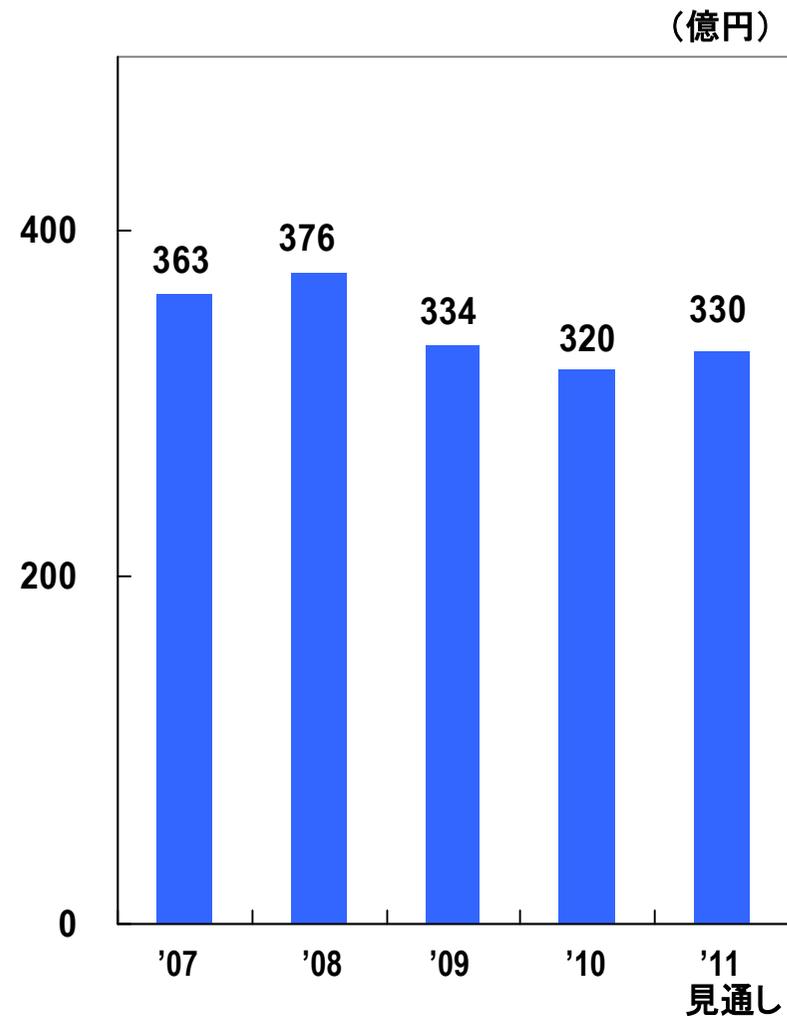
開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
GTH-42J (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー製剤を目指す。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入: 米メルク社

◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



TEIJIN*Human Chemistry, Human Solutions*

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。